

# テレビ・ラジオと印刷教材の 複合利用に関する研究

メディア活用研究班

放送教育開発センターでは、昨年度から「テレビ・ラジオと印刷教材の複合利用に関する研究」をスタートさせている。これは、放送大学の教材について、より教育効果の高い教材の開発を行うための研究であり、具体的に番組ならびに印刷教材の試作を行ないながら検討を重ねていこうというものである。すでに、昨年度に行なわれた放送教育開発センター主催の「第5回 大学放送教育シンポジウム」において、放送大学「発達と教育」専攻の専門科目『教育社会学』（主任講師・新井郁男上越教育大学教授）を題材にした研究が発表されている。（『MME研究ノート』第27号）

昨年度は、時間的制約もあり、すでに制作されたテレビ番組のラジオ化と、ラジオ用の印刷教材の試作にとどまった。本年度は、この研究の成果を踏まえ、より充実した研究が目指された。今回は、同じく放送大学の「人間の探究」専攻の専門科目『文化人類学』（主任講師・祖父江孝男放送大学教授）を取り上げ、すでに制作、放送されている番組とは全く異なるテレビ番組と、ラジオ番組とを新たに制作し、それに付随した印刷副教材をメディア別に試作することにした。また、制作に当たっては主任講師を中心としたコースチームを組織し、数回にわたる研究会を経て内容についての検討が重ねられた。試作された教材については、放送大学の学習センターでのモニター調査を実施し、教材に対する学生の評価を収集した。

以上の試作ならびに調査の結果は、放送大学・放送教育開発センター共催の「第一回 大学放送教育国際シンポジウム」の第2セッションで発表され、パネラーとチームメンバーを中心とした討議が行なわれた。本『MME研究ノート』は、この研究成果の報告である。

まず、第1部は、試作された教材の報告であり、もとになった印刷教材の該

当部分、テレビ・ラジオ試作番組の文字化、印刷副教材を掲載した。また、第2部においては、シンポジウムでの討議について報告している。また、調査に対する報告の補足と、チームメンバーからの補足説明も同時に掲載した。

メディアの活用方法と教材の改善に関する研究は、放送教育開発センターが重点的に進めていかなければならない領域であり、今後も引き続き研究が積み重ねられることになる。その成果は、今回と同様にシンポジウム等で発表し、公けの議論の場に提供されることになろう。